

2021(令和3)年度

事業報告書

学校法人 聖霊学園

1 法人の概要

(1) 基本情報

- a 法人の名称 学校法人聖霊学園
- b 主たる事務所の住所 秋田市南通みその町4-82
TEL 018-833-7311
FAX 018-837-2445

(2) 設置する学校、学科等および定員、学生数等

(単位:人)

		募集(入学)定員	収容定員	1年(入学者数)	2年	3年	計	
聖霊女子短期大学								
本科	生活文化科	生活文化専攻	50	100	59	32	91	
		生活こども専攻	50	100	31	34	65	
		健康栄養専攻	60	120	49	52	101	
専攻科	健康栄養専攻	15	30	4	12	16		
短期大学 計		175	350	143	130		273	
聖霊女子短期大学附属高等学校		320	1,248	151	163	160	474	
聖霊女子短期大学附属幼稚園・保育園		利用定員116	在園児 0歳:5	1歳:9	2歳:10	3歳:35	4歳:29	5歳:28
							105	

R3.5.1現在

(3) 役員概要

理事長	マツテュ フィリップ			
理事	折原順悦	梅村祥子	村山恒平	新野直吉
	高橋恵喜	金田早苗		
監事	高橋正毅	藤本律子		
評議員	高橋恵喜	仁村由美子	塚田三香子	三森一司
	半田隆志	伊藤 晶	マツテュ フィリップ	梅村祥子
	折原順悦	金田早苗	伊藤久子	新野直吉
	佐藤研三	辻 久男	山内征三	村山恒平

R3.5.1現在

a 役員改選

2022年3月15日で任期満了を迎えた新野直吉、村山恒平の両理事が退任し、高橋恵喜、金田早苗の両理事および高橋正毅、藤本律子の両監事が再任され、理事5名、監事2名による新たな体制が3月16日からスタートした。また、高等学校長の折原順悦理事が3月31日をもって高等学校長・理事を退任し、4月1日から新たに工藤保代が高等学校長・理事に就任することとなった。

b 非業務執行理事および監事との責任限定契約の締結

2020年4月1日に、次の非業務執行理事および監事と締結した責任免除・責任限定に関する学園に対しての賠償責任についての責任限定契約は継続している。

非業務執行理事	梅村祥子		
監 事	高橋正毅	監 事	藤本律子

(4) 教職員の状況

(単位:人)

	教員	事務職員	その他職員	合計
聖霊女子短期大学	28	11	3	42
聖霊女子短期大学附属高等学校	45	8	3	56
聖霊女子短期大学附属幼稚園・保育園	19	1	1	21
法 人	0	3	0	3
合 計	92	23	7	122

R3.5.1現在

(5) 建学の精神

聖霊会(聖霊奉侍布教修道女会)創立者アーノルド・ヤンセン神父は、すべての人が聖なる三位一体の神の、愛に満ちた一致へと集められることを願って、全世界に会員を派遣されました。

1908年に日本へ派遣された会員は、人々、特に女性が、人格の尊厳と、家庭と社会における自己の使命と役割に目覚め、神の期待される人間として成長できるようにと、聖霊学園を創設しました。

(6) 教育理念

聖霊学園は、神の愛である聖霊によって一つに結ばれた共同体です。
ここでは、人間一人ひとりが神から与えられた、かけがえのない存在であると確信し、学園に学ぶすべての人が、神から期待される人間に成長できるように力を尽くします。
神の期待される人間とは、イエス・キリストにならい、神を敬い、自分をも人をも大切に、人のために尽くしながら、人々と共に生きることのできる人です。
この教育理念に基づき、「光の子として歩みなさい。」を、教育目標としております。

(7) 法人の沿革

- 1908(明治41年) 私立檜山幼稚園開園
- 1909(明治42年) 私立女子職業学校開校
- 1915(大正 4年) 私立聖霊学院女子職業学校と改称
- 1923(大正12年) 私立聖霊女学院と改称
- 1928(昭和 3年) 私立聖霊高等女学院設置
- 1941(昭和16年) 私立聖霊高等女学校と改称、幼稚園も同付属幼稚園と改称
従来の個人経営を財団法人聖霊学園に変更
- 1947(昭和22年) 中学校設置
- 1948(昭和23年) 新学制に伴い聖霊高等学校として転換設置
- 1951(昭和26年) 財団法人を、学校法人聖霊学園に変更
- 1954(昭和29年) 聖霊女子短期大学設置
中高を、聖霊女子短期大学付属中学・高等学校と改称
- 1955(昭和30年) 幼稚園を、聖霊女子短期大学付属幼稚園と改称
- 2015(平成27年) 中学校を休校
幼稚園を廃止し、幼保連携型認定こども園の聖霊女子短期大学付属
幼稚園・保育園を設置

2 事業の概要

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

各部門の教育活動は新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら継続してきたが、運動部の大会での感染確認により高校では1週間の休校、幼稚園・保育園での感染確認により4日間の休園等の対応をした。

2. 環境整備等

国・県および後援会などの支援を受け、短大では学生パソコンの更新やエアコンの整備などを進めたほか、高校では1人1台端末や大型ディスプレイ、大型プロジェクター、特別教室等へのWiFi整備が進められ、時代に即した教育環境を整えつつある。

3. 主な取り組み

短大は新学長のもと、139名(前年度より16名増)の新入生を迎えコーチングやリーダーシップ、ロボットを活用したプログラミング教育、英語で学べる講座等の新たな取り組みをスタートさせたほか、次年度からICTキャリアやグローバルキャリアなど3つの新コースを開設することとした。

高校では150名(前年度より19名減)の新入生を迎え、夏休み前に全員に端末を貸与し、授業や家庭学習、学習の記録などに活用している。また、生徒会を中心にSDGsの取組をスタートさせた。

幼稚園保育園では、東北地区研修大会を契機として研修を充実させ、保育の質を高めて園児の獲得に結びつけている。

学園全体の学生・生徒数は前年度から合計で53名の減少となっており、各部門とも、学生・生徒等の確保が急務となっており、学園全体で危機感を共有し一丸となり、スピード感をもって取り組む必要がある。

(1) 短期大学

a 学士の授与

大学改革支援・学位授与機構により、2022年3月専攻科健康栄養専攻修了生12名全員に学士(栄養学)が授与された。今回の12名は聖霊女子短期大学を卒業後本学専攻科の修了者であり、「学士の学位授与に係る特例」が適用され、学習成果に関する試験の受験なしに学士を取得したものである。

b 公開講座

本学の地域貢献活動として一般市民を対象とした公開講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。管理栄養士の国家試験合格を目指す栄養士23人に対し、9回にわたる「国家試験対応セミナー」で資格取得を支援した。第36回管理栄養士国家試験では、本科卒業生6名、専攻科修了生8名が合格した。

c 私立大学等即戦力人材育成支援事業関連公開講座

2021年7月28日～8月6日、2022年1月7日に英会話を交えた食育講座を、秋田市内の3つの児童クラブの児童を対象に実施した。

d 国際交流

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべての海外研修等を中止した。

e クリスマスティーパーティー(クリスマスオープンキャンパス)

2021年12月4日に、オープンキャンパスに参加した高校生と保護者を招きセシリアホールで開催。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、お菓子(せいれいキイチゴケーキ)や飲み物は持ち帰りとし、学生たちが心をこめて準備したクリスマスセレモニー、音楽演奏やクイズ等を楽しみながらクリスマスの喜びをともに分かちあった。

f 高大連携授業(大学コンソーシアムあきた:会場はカレッジプラザ等)

前期は2講座を予定したが、1講座は14名の高校生が参加、もう1講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

後期は1講座に7名の高校生が参加し、授業科目の一端に触れることで自らの進路や本学への進学を考えてもらう機会とした。

g ピア祭

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生と教職員のみでの参加とし、午前と午後で対象学年を分けて感染症対策をした上で行われた。

h 学生募集

(a) 高校訪問 県内の高校訪問は、年間3回を2回に変更して広報を行うとともに、進路指導教諭との面談を通し、高校側からの意見や要望を聞いて改善につなげる機会とした。

(b) 入試説明会 付属高校での2回の説明会や講演会、県内高校での8回(オンライン含む)の説明会や講演会を実施したほか、学外会場で2回の説明会を行って募集に努めた。

(c) 聖短体験学習 新型コロナウイルス感染症拡大防止をしたうえで、12月4日に付属高校生2年生を対象に開催し、本学への進学を考えてもらう機会とした。

(d) 本学会場県内高校教員対象説明会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン説明会とし、12校が参加した。県内高校には資料を郵送し、高校訪問時に説明をした。

(e) オープンキャンパス 7月3日、9月4日および12月4日の3回、予約制でオープンキャンパスを実施し、合わせて207名の参加を得て、各専攻の紹介や体験授業を実施した。

i 卒業生の進路状況 (2022年3月卒業生 5月1日現在)

本科卒業生115名のうち就職希望者は87名、県内就職が82名、県外就職が5名で計87名が就職

し、就職決定率は100%、県内就職率は94.3%であった。

また、生活こども専攻は96.3%、健康栄養専攻は71.1%が、それぞれ専門職である保育士、幼稚園教諭、栄養士、栄養教諭として就職した。専攻科修了の5名は全員が栄養士として県内就職した。

進学は、秋田公立美術大学などの四年制大学への編入5名をはじめ、本学専攻科進学が7名、本学のキャリアアップ連携1名、専門学校2名で計15名が進学した。

j 補助金の採択状況

県内企業等の即戦力となる専門人材の育成や県内定着を図るための実践的な教育活動および県内就職の促進を図る取組への補助事業として次の3事業が採択された。

(a)ふるさと「秋田の夢・未来の担い手」となる保育士の養成

(b)秋田県における女性の活躍推進に向けた栄養士育成の強化

(c)秋田県の地域文化と理解と情報発信情報発信力養成により、地域の活性化に貢献する取組
これらの補助金を活用して教育研究の質の向上を図った。

k 新規教育研究状況

(a)グローバル教育 (b)リーダーシップ教育 (c)4ステップ教育 (d)教育コーチング

l コロナ禍における対応状況

(a)本学の新たな教育

本学の教育環境に、ICTを活用したシステムを導入し、遠隔授業や海外との交流などの授業形態を確立するとともに、学生が本学でのICTの体験を通して、卒業後の社会で役立つ教育を推進した。

(b)空調等の整備

国の補助制度を活用し、M204,M205教室にエアコンを設置した。またザビエルホールにもエアコンを設置し、整備の一部に後援会からの経済支援をいただいた。

(c)インターネットによるオンライン(遠隔)授業の整備

振興会から経済支援をいただき、授業用パソコン92台、教員用ノートパソコン23台の整備をした。

(d)入学式のライブ配信

新入生、在学生代表と教職員で本学セシリアホールで举行したが、保護者が参加できなかったため、入学式をライブ配信した。

(e)卒業式のライブ配信

卒業生・修了生、在学生代表と教職員で本学セシリアホールで举行したが、保護者が参加できなかったため、卒業式をライブ配信した。

(2) 高等学校

a 生徒募集

(a) 中学校訪問

県内の54の中学校を年間4回訪問し、「学校案内」や「国際コースのリーフレット」などで本校の魅力を伝え、推薦入試、一般入試特待生生徒などについて、きめ細かな説明を行って生徒募集に努めた。

(b) 見学会・入試説明会・進路相談会

7月24日(土)からホームページにて「SEIREI ONLINE Open School」を実施。You Tubeにて7月12日～14日の期間広告を出した。視聴回数は6,835回で、視聴率は30秒が38%、完走率は25%、試聴単価は6.7円だった。

学校見学会は9月7日と8日の2日間に分けて実施。生徒148名、保護者50名の参加(前年度生徒184名、保護者56名)、進路相談会は5回実施で、70名の参加(前年度81名)であった。

さらに、中学校からの依頼により秋田市の2校で生徒と保護者を対象とした学校説明会を開催したほか、上級学校訪問として中学生が本校を訪問して校内見学などが行われた。

(c) ホームページの活用

トップページを動画に変更し、日常の様子や行事を伝えるよう更新に努めた。
また、年間行事や月行事も掲載し、後期からはさらに更新頻度をあげることができた。

b 国際教育

(a) 留学の推進および語学研修

オーストラリア姉妹校との交換留学および語学研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべて中止したが、10月には研究授業においてオンラインで姉妹校生と交流することができた。

(b) 聖霊短大・秋大講師による国際理解のための特別授業

夏期や冬期補習期間を活用して国際コースの特別講座として実施した。

(c) 各種の大会等への参加

高等学校英語弁論暗唱大会弁論の部では1位、2位を獲得したほか校内のスピーチコンテスト、エッセイコンテスト等を通じて語学力やプレゼンテーション能力を磨いた。

(e) 聖霊高校主催 中学生英語暗唱大会

全県から8名(前年度19名)の中学生が参加して、英語での表現を競い合うとともに英語教育・国際教育の強みや魅力に触れてもらう機会となった。

c 進路指導

(a) 進学指導

きめ細かな面談や相談会、進路講演会等により早期に進路目標を持たせるとともに、勉強合宿(宿泊なし)や夏期特別講習、模試等を活用して指導を強化し、それぞれの進路目標の達成につなげた。

(b) 就職指導

早期の面談や指導を進め、資格取得の支援やインターンシップへの参加などにより、それぞれの進路目標の達成につなげた。

d 宗教行事・奉仕活動等

生徒が主体的に自分の生き方を考え、人間的に成長できるよう、静修や聖霊降臨祭、待降節などの行事やボランティア活動等を行った。

e 課外活動

運動部ではテニス部が全県高校総体で団体戦20大会連続28回目の優勝を果たし、個人単複とともにインターハイ出場を果たした。

バレーボール部、フェンシング部がそれぞれ第3位、バレーボール部は春の高校バレー県予選でも3位入賞を果たした。

文化部では、合唱部が全日本合唱コンクール東北支部大会で銅賞、吹奏楽部も全日本吹奏楽コンクール秋田県中央地区大会で銅賞となった。

演劇部は、中央地区高校演劇コンクールで最優秀賞、県高校演劇発表会で優秀賞となった。

科学部は、齋藤憲三・山崎貞一奨励賞において「人工宝石を作ってみよう」のテーマで銅賞を受賞した。

f 卒業生の進路状況 (2022年3月31日現在)

卒業生158名のうち、4年制大学進学は秋田大、国際教養大、宮城教育大、上智大等をはじめとして71名、短期大学進学が35名(聖霊短大25名を含む)、専門学校進学が37名であった。

また、就職者は秋田県警など公務員を含む9名で、県内就職は6名であった。

g ICT教育の推進

県や国の補助を得て、1人1台端末を整備のうえ全生徒に貸与し、各教室への大型モニターを整備して、ICT教育をスタートした。10月の校内研究会では端末を活用した研究授業を実施した。

(3) 幼稚園・保育園

a 重点実施項目

(a) 年間の主な行事

親子が共に成長することを視野に入れ、保護者アンケートを参考に園のねらいと合わせて内容を吟味し、実施形態を工夫して実施した。特に外部講師と連携して、英語、サッカー、プール、カワイ体操、木育活動を取り入れ体験を広げていった。

- 4月 : 入園式・イースターのお祝い
- 5月 : こどもの日のお祝い～こいのぼりさんぽ～、マリアさまのお祝い
- 8月 : 夏の冒険旅行(ザリガニ釣り・自然物工作)・個人面談(年少・中・長)
- 9月 : 運動会(チャレンジひろば)
- 10月 : 秋の遠足(年少・中) 動物園・年長リンゴ狩り(種沢) 県立博物館・天王グリーンランド 土曜日本育体験(年中、年長の親子でわくわく木工)
- 11月 : 生活発表会(木育体験) 園外保育、年中・年長(クリプトンで散策・自然物工作)
- 12月 : クリスマスのお祝い会 I 聖誕劇 II お祈り会
- 1月 : もちつき・個人面談
- 2月 : 豆まき、(木育体験)年長 親子で木工迷路製作
- 3月 : ひなまつり会、卒園式 卒園感謝の祈りの集い

(b) 子育て支援の充実

就学前の面談等で、特に発達が気になりな年長児の進学に伴う教育研究所とのネットワークの活用、小学校との連携・情報共有を図ることで、保護者の不安を軽減し、見通しのもてるように支援してきた。

(c) 職員の専門性の向上

キャリアアップ研修に関しては、感染症対策として参加人数が制限されたため、受講できる枠が少ない状況が続いた。

(d) 東北地区教員研修大会(秋田会場)

7分科会のうち第6分科会の研究テーマ「学びの連続性を考える～子ども理解を深め、遊びの課程から学びや育ちを見つめる」について3年間の研究の最終年度として指導講師とzoomにて6回のミーティングを重ね、共同研究の3園とともにテーマに迫り、実践研究発表に臨んだ。大会ではリモートの発表であったが、新しい研究の在り方を示し、実り多いものとなった。

(e) 他部門との連携活動

短大の子ども専攻の実習生の受け入れや、高校聖母会との連携でSDGsに取り組んだ。スマイル缶デーと名付け、アルミ缶回収によりカトリックこども基金への募金活動を継続している。

(f) コロナ禍における対応状況

在園児の兄姉や職員の子どもの学校等の休校等により、職員が出勤できない状況も続き、時間外勤務での対応を余儀なくされた。感染確認による休園等は4日間であった。

3 施設、設備、機器等

短大: ザビエルホールと2教室のエアコン整備、遠隔授業のためのパソコン等の環境整備、屋根葺替
高校: 一人1台端末の整備・貸与、特別教室へのWifi整備、外壁補修
幼保: 非接触サーマルカメラ等

4 入学試験状況(2022年度入学分)

(1) 短大

生活文化専攻(50)、生活こども専攻(50)、健康栄養専攻(60)の定員160名に対し、133名が志願、132名が合格したが、入学者は120名であり、入学定員充足率は75%であった。

<本科>

(単位:人)

	推薦	一般	社会人	合計
志願者	91	31	11	133
合格者	91	30	11	132
入学者	91	19	10	120

専攻科は定員15名に対し14名が志願、9名が合格して入学し、入学定員充足率は60%であった。

<専攻科> (単位:人)

志願者	14
合格者	9
入学者	9

(2) 高校

推薦の志願者は合わせて前年度より4名の増で、入学者は3名増加した。一般他の志願者は115名減少の337名で、入学者は18名増の71人となった。

入学者の合計は前年度より9名減の141名となった。

(単位:人)

	推薦	推薦Ⅱ期	一般他	合計
志願者	65	13	337	415
合格者	65	13	327	404
入学者	64	13	64	141

5 今後の課題

短大： 入学定員の充足を図るための効果的な学生募集活動の推進
三専攻共通の魅力づくりと各専攻の魅力づくり
教育のデジタル化と教育環境の整備
21世紀のグローバル社会における公共機関、専門機関、地域社会との連携
教育研究を支える体制と運営体制の強化

高校： 生徒募集活動の見直しと充実による生徒確保
新学習指導要領や大学入試改革への対応
学習指導の徹底と進路目標の達成
将来に向けた改革案の検討
ICTを活用した学習指導等の対応
働き方改革に伴う業務内容の見直し

幼稚園： 多様な背景を持つこどもと親への支援の充実
認定こども園の特徴と課題に対応した保育の充実
6年間の一貫した教育保育の実践

法人： 財政の健全化に向けた取組の実施
財務監査、教学監査の充実と監事監査のサポートとフォローアップ
各部門の改革への取組との連携
働き方改革への対応
新たな寄付募集の推進

6 財務の概要

(1) 事業活動収入、事業活動支出等の推移(新会計基準による)

(単位:百万円)

	事業活動 収入	事業活動 支出	基本金組入 前当年度 収支差額
28年度	1,052	1,183	-131
29年度	1,114	1,154	-40
30年度	1,066	1,104	-38
令和元年度	991	1,043	-52
令和2年度	1,061	1,083	-22
令和3年度	1,060	1,109	-49

(2) 令和3年度の状況

- a 事業活動支出は事業活動収入を49百万円上回った。
- b 学生生徒納付金は昨年度比1百万円の増、補助金収入は12百万円減少し、事業活動収入は、前年度並みとなった。

- c 人件費は前年度比26百万円の減少、教育研究経費はICT関連経費支出等で54百万円の増となり事業活動支出は前年度比26百万円の増となった。

(3) 主要財務比率の推移(新会計基準による)

(%)

	経常収支 差額比率	人件費比率	教育活動 資金収支 差額比率	積立率	流動比率
28年度	-12.3	83.4	3.5	46.6	193.1
29年度	-3.3	77.6	-9.0	44.0	224.1
30年度	-3.3	76.9	3.0	43.3	320.4
令和元年度	-7.2	77.9	6.5	44.0	401.1
令和2年度	-4.2	76.4	5.0	42.6	397.7
令和3年度	-6.6	73.9	-7.2	40.5	439.8

算式 経常収支差額比率 = 経常収支差額 ÷ 経常収入 × 100

人件費比率 = 人件費 ÷ 経常収入 × 100

教育活動資金収支差額比率 = 教育活動資金収支差額 ÷ 教育活動資金収入 × 100

積立率 = 運用資産 ÷ 要積立額(減価償却額累計 + 退職給与引当金 + 第2号・3号基本金) × 100

流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債 × 100

(4) 財務状況に関する課題

- a 収入については、今後の更なる人口減少・少子化にあっても、中期計画で打ち出した改革案を実行し、学生・生徒・園児を増加させなくてはならない。
また、国や県からの経常的な補助金確保の他、活用できる他の補助金・寄附金等の獲得に力を入れる必要がある。
教育充実等のため保護者負担の見直しを行ってきたが、学校納付金のみにとどまらず、保護者が負担している様々な経費を勘案して、全体的な負担軽減策は引き続き検討していく必要がある。
- b 支出については、同規模法人の平均値を上回っている人件費比率を低下させる更なる見直しとともに、デジタル化に伴う仕事の見直しによる諸経費の削減や、効率的・効果的な支出と予算管理の徹底が必要である。
老朽化した施設設備の改修・更新は緊急性や必要性を勘案し、優先順位をつけて実施するとともに、時代と社会の変化に対応した学生生徒等の増加につながる対策を実施する必要がある。